

である。営業道徳の低下もこの適当にというところから生れてきているのである。

あとがき

中小企業者の問題的な意識はこのようにして経済的な困窮とそれを切り抜けるための生活の構えとして互に因となり果となって生れるべくして生れてきているのである。

以上の考察はまだ常識的であり、粗雑なものではあるけれども、我々の能力の不足と期間の関係とから止むを得なかつた。今後更に不十分なことについては引続いて考察を深めていきたいと考えている。

(3) ガイダンス・ニーズの調査

① 調査の目的

毎日個々の児童生徒に接し、それぞれの子供達の指導を通じて、子供や更にはその背後にある地域の問題と対決しつつある教師は、自己の胸の中に、児童生徒並びにその背後にある地域の人々の考え方や行動の仕方に対して、「一番困ることはこういうことだ」とか「これがなくなればいいんだが」とか「こんなふうになってくれるといいんだが」とかいうような考えや悩みがあるのではないかと思われる。このような悩みや必要を明らかにし、具体的な教育目標設定の際の、一つの資料にしようとした。

② 調査対象・期日並びにその方法

1. 対 象。 市内小中学校教師 376名
2. 期 日。 昭和28年10月10日
3. 方 法。 次のような質問紙を出して自由に記入して貰い集計した。

おねがい

足利市教育委員会は本年度初頭、昭和28年度の教育努力目標を設定し、先生方の御手許におとどけ致しましたが、引きつづいて教育の一般目標を設定するにとなりました。この一般目標の設定に關しては、目標設定委員会をもち、現在当面している日本の課題やその他の社会調査の結果、さらにはさきに示された文部省や、栃木県の教育の一般目標を参考にし、この地域ではどのような方向に教育の力がそそがなければならないかの教育の一般目標を明らかにしたいと思ひます。

子供達並びに子供達をとりまく社会に接しながら児童生徒の学習指導や生活指導に當っておられる先生方の胸の中には、必ず、「こういうことがなくなればいいんだが」とか「こういう力をもっとつける必要がある」とか「こういうところはなおさなければならないのであるが」等、日頃氣のついておられること、御感じになつておられることが、いくつもおありのことと思ひます。このような皆様の御意見は地域の教育目標設定のために種々と貴重な資料となりますので、御感じになつておられる御意見をありのままにおかきいただければ幸いに存じます。御多忙中誠に恐れ入りますが、この調査の主旨を御理解いただき、是非御協力下さいませよう御願ひ致します。

(記入に當つて)

- 御意見は教科を取扱う際に感じられておることでも、或は全体的な生徒指導に關することの何れでも結構です。できるだけ沢山お寄せ下さい。
- 担当教科に關しては該當する方を○でかこんで下さい。教科名のところは担当なさっている主な教科をおかき下さい。小学校の先生については、専科の先生以外の先生は全教科と御書き下さい。

○記入者氏名並びにその記入事項については記入者の許可なしに公表するようなことは致しません。できる限り氏名若しくは記号をおかき下さい。

○男女別のところは、特に男子に関してか、或は女子に関してか男女共通のいずれか該当するものを○でかこんで下さい。

○整理番号はこちらで記入致します。

○はじめに記入例をあげておきます。こんな要領でおかき下さい。

足利市児童生徒ガイダンス		ニーズ調査表		担当教科	有無	教科名 ()	記入者氏名 若しくは記号 []
整理番号	ガイダンス・ニーズ	男女別					
	○読書能力の向上をはかる必要がある。	男子 女子 男女共通					

③ 結果の処理

回収された意見は、一応文部省から示されている学校教育の目標36項目の領域に別けて整理し、これに含ませることが無理であると思われるものは別に領域を設けて整理した。整理に当ってはでき得る限りかかれた言葉をそのままに残し、整理によって意見や悩みの変わってしまわないように特に留意した。併し、意味内容が同じであり、ただ表現の形のみ変わっていると思われるものは、代表的な意見の中に含めその頻数を示して整理した。又多数の意見の中には、指導上の必要に関する意見というよりも、このような悩みを解決するための方策に対する意見と思われるものも少なからずあったが、これについては、解決策への示唆としてそれぞれの領域に記載した。このようにしてできた教師の意見や悩みには、教師の個人的な人生観なり特殊な体験なりと結びついた場合もあり、又意見の範囲も学校教育に関係した意見や悩みが主となつてあらわれてきているというような欠陥も多少はあるけれども、一般目標をより一層具体化する上に大いに役立てられた。

④ 集計の結果

註……表中□のなかの数は、ガイダンス・ニーズの整理項目38項目のそれぞれに分類された数であり、〔 〕のなかの数は中項目の数、○の中は具体的な内容のそれぞれに表れた数である。

整理番号	ガイダンス・ニーズ	内容〔具体的な内容〕	解決策並びに解決策への示唆	頻度数
1	<p>◎自分から進んで勉強しようという気持が足りないので困る。もつと根気よく自分から進んで勉強しようとする気持を養わなければだめだ。</p> <p>○勉強しないことを当然のこととしている気風がある。</p> <p>○宿題を出さなければ、自分から進んで勉強しようとしな</p>	<p>○どの教科もそうだと思うが、現在のように一クラス57.8名前後の子供達を受持って、しかも一人一人の子供の能力に応じた学習を行わせてほしいというようにいわれると、いまのままではどうにもならない。自分から進んで勉強していこうという子供が多ければ何とかなるように思われる。やってもできない子供も少なくないが、やればまだまだいくらでもできるようになる子供が沢山いると思われる。</p> <p>○自習の時間として明らかに定められている朝の僅かな時間にさえ、多くの子供達が自分から進んで勉強しようという気持にならない。ときには自分が勉強しただけでなくて、他の者の邪魔をさえしている子供が少なくない。</p> <p>○他の子供から点取虫などといわれることを恐れて勉強しない子供がいる。</p> <p>○自分から進んで図書館の本を利用し勉強の助けにしようというような子供は極めて少ない。</p> <p>○授業中の勉強も他人から頼まれてやっているような態度の者がいる。</p> <p>○学習時間中、注意散漫な子供が多くて困る。</p> <p>○社会科のグループ研究も多くの場合参考書を写す程度であり深く理解することなく、発表も理解して発表している子供は極めて少ない。</p> <p>○理科の実験などのときにも積極性がみられない。</p> <p>○宿題を出さなければ勉強しない。</p> <p>○言いつけられた学習だけをやればよいという考え方をしている者が少なくない。</p> <p>○自発的な学習態度ができていなければ宿題を出しても、単に形式的にやるか、或はやってもいない。家庭ではどうしても「先生！宿題がでない、うちの子は勉強しないから、もつと宿題を出して下さい。」というけれども、子供達にもつと学習態度ができていなければ、宿題を出してもその効果は極めて少ないように思われる。</p> <p>○或るクラス〔K小・V・Hクラス〕55名に対して ※宿題に関するしらべを行ったときの一例。</p>	<p>・学習意欲のあふれた学習態度が生れるためには基礎的な学科の力が養われていなければだめだ</p> <p>・類似した問題を沢山やらせ、国語や算数の力を充分につけておけば、子供達はいろいろな教科に対して興味をもって勉強するようになる。</p> <p>・家庭学習の方法を工夫して有効にこれを用い、子供達の学習</p> <p>・学習の面白さを味わせるための、教師の教育技術と努力とが不足している。</p> <p>・家庭もただ勉強しろというだけでなく、学校と連絡をとって、自分から進んで勉強するように仕向けなければならない。</p>	<p>60</p> <p>[23]</p> <p>18</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>[12]</p> <p>6</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>[11]</p> <p>9</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>1</p>

④宿題を出されてやってきたかどうか。

- { (a) やってきた (32名)
- { (d) やらなかった (23名)

⑤やらないとすればその理由。

- { (a) 仕事の手伝いのためできなかった (4名)
- { (b) わからないからやらなかった (15名)
- { (c) もう少しでおわる (3名)

※毎日の家庭での勉強

- (a) 毎日復習をするもの (1名)
- (b) 毎日予習をするもの (2名)
- (c) 殆んど何もしないもの (52名)

こんな状況はひどい例かも知れないが、こんな現状のところもあるのである。

○図書・新聞
ラジオ・講演等を有効に自分の学習のために利用しようとしな

○自分から進んで図書館の本を利用し勉強の助けにしようとしているような子供は極めて少ない。

○新聞・雑誌、ラジオ等自分達の勉強のために極めて有効なものがあつても、それを利用して自分の力をつけようとするものが少ない。

[4]
②
②

2 ○まわりのものにひきづられたり、感情に流されたりしていいことと悪いことの区別をしっかりとつけて行動することのできる子供があまりにも少ない。

○このようなことを要求するのは義務教育中の子供に対しては無理かも知れないが、併しもう少し、いいことと、悪いこととに対してあやまりのない判断を下し、まわりのものにひきづられないで、しっかりとした態度がとられてもよいと思う。

○頭の中だけでわかって、口先だけでいゝ悪いを言うのではなくて、実行に移すことのできるような実践力を養ってやる必要がある。

○自分の言動を反省して、いつも正しいことを勇気を出してやっといこうと努力している子供が極めて少ない。

11
[4]
②

①

①

○上っ調子な子供が次第に多くなつてきているように思われる。広い視野に立つて新しい道徳の理念を身につけさせるような教育が行われなければならない。

○偏つたイズムや気違いじみた奇妙な愛国心の養成の場となつては困るけれど、いまの日本人の心の空虚を満たすような道徳的な原理を子供達に身につけさせるために、特別な対策が考えられなければならない。

○本人としては善意からでているのであるけれども、それが世の中の進歩のためには、大きな妨げとなつていような行動を、知らずにとつてい大人が少ない。極めて頑固に自分の行爲を弁護し主張する大人が多い。

○新しい道徳をしっかり身につけた頼もしい子供を世の中に送り出してやらなければならない。

・人々の空虚な心を充すために例えば修身科のような科目が考えられて然るべきだ

[4]
②

①

①

○道徳的な心情に裏付けられた背骨のある子供をつくらなければならない。

○現在の子供達は多くの人達から、いろいろと非難されなければならないような幾つかの欠点や弱点をもっている。が併し、戦前の子供達に較べて決してそれ程悪いとばかりは思わない。子供達の悪い点だけを特に強く指摘する人が多いが、その殆んどが自分に不都合に感じられたり、進歩していくこれからの社会では逆に清算されなければならないような考え方をものさしにして、悪いという場合がきわめて多い。こういう点からは子供達についての大人の批判にそれ程気をつかわなくてもいいように思うけれども、ただ一つ今の子供達が、自分の行動をいつもささえてくれるようなはっきりとした行動の基準・よりどころをもっていないという批判に対しては、充分の反省がされなければならない。

○戦争よみものや美談物は生徒の心をよく把えるけれども、ともするとあやまった心情を形成してしまう危険が少くない。正しい心情を養うために、その取扱いは充分配慮すると共に、正しい心情を養うために、何か別な方法が考えられなければならないのではないだろうか。

①

3 ○ひとの話を謙虚にしかもしづかにおしまいまでできこうという態度ができていないし、又自分の考えを誰の前でも臆せずに、相手にわかるように話すということが容易にできない。

○ひとの話をきくときに素直におしまいまできくということが少くない。そして理屈の通らないような意見を出して話を打ちこわしてしまう子供が目立つ。

○教師の話や、友達の話はきくときには、こそこそ自分の勝手なことを話しており、しっかりときこうとせず、又発表させても全然発言しないか、発言しても小声で聞きとれなかつたりするようなことがきわめて多い。低学年の頃から、ひとの話をよく聞き又すすんで話し、正しいと思う意見はいつ、どこでも発言しようという態度と発言できる能力とを養っておく必要がある。そうすれば、大人になったときに正しい意見がどんどん発表できて、それが正しい与論を生み育て、それによって立派な政治も行われるようになり、正しい社会を生み出すものになると思われる。

○学級会などのときに意見を発表している子に対して、無関心な者が多い。

○休み時間中は大きな声で話をしているが、授業になると必要な話ができない者が多い。

○雑談のときは人一倍多弁であるのに、さて必要なこととなると、きかれても返事ができない。顔ばかりみているやっとうなずく程度であって、じれったく

なる。

○必要なときには自分からすすんで発表しようとする態度と発表できる能力とを身につけさせることが必要である

○言葉使いを標準語に近づけて、正しい話し方聞き方を身につけさせる必要がある。

○生き生きとした発表力をつけておいてやる必要がある。

○会議やふだんの授業の際に、自分ではわかっておりながら、答えたり発表したりしない生徒が少なくない。

○学習中手をあげないでいる子供で、発表する内容ははっきりとらえているけれども、発表力がないために発表できないでいるという子供（児童）が少なくない。

○「今のこどもたちは口先だけは達者である」と言われるが、その口の方もまだまだ不十分であると思う。週番のときなど、自分の思っていること、伝えなければならないことがわかっている、ねちねちして言わない子供が多くて困る。

○言葉が粗野であり、又話そうとすることを、要領よくまとめて話すことができない。

○方言による話は親しみ易さを感じるけれども、改まったところでたときに方言ばかり使うわけにはいかないのであるから、正しい標準語で充分話せるようにしておいてやらなければならないと思う。

○子供達は家庭において方言で話をしていて、これになれているため、公のところに出て標準語がやすやすとでてこない。随分困ることがある。

○「そこんそば」「だんべ」「うそっぺ」「がぼん」「おんぶちやる」など、その他すべて方言はできる限り改めさせる必要がある。

○言葉が粗野であり、又美しくない。もっと正しいアクセントときれいなことばで話ができるようにしてやらなければならない。

○濁音と鼻濁音との区別をはっきりとよみわけたり、話したりすることができない。

○学校へきて、一日中一言も発表しないで帰っていくような子供も少なくない。方言だからといって子供達にもあまりにも強くそれを使わせないと子供達はゆがめられてしまうように思う。もっと、自分達がふだんから使っている生き生きとしたことばで、授業などのときも充分話をさせ、徐々に標準語にしていくべきだ。無理をしてまで標準語にする必要はないのではないか。

4 ●文章をよく読んで理解したり自分

○昔のようにただ読み書きができさえすればいいというのでも困るけれども、やはりもっと文を読解する力、文を作る力をつけておかないと大いに困る。特

・気軽に話し合える機会を多くとってやる必要がある

・子供だけでなく父兄にもあてはまることであると思われが、発表できないのは常日頃から、自分の考えをまとめておかないで漠然と考えているからである。

・常日頃から正しい言葉遣いになれさせておく必要がある。

・低学年のうちから、少しづつ正しい言葉づかいで発表する機会を設ける必要がある。

・入学当初、あまり強く正しいことばを使いを使うように要求し過ぎないようにしなければならないと思う。

・作文にかかれた子供の発表を常に取りあげていくよう

[28]

②

⑥

①

[29]

⑧

④

③

②

②

①

[3]

③

81

[33]

の思うことを文章に表現することができるような力を養ってやる必要がある。

○自分の考えをまとめ、それを文にかく能力を養い、文字による発表の仕方になれさせる必要がある。即ち文章をつくる力をつけなければならない

○文字を正確に書く力を養うと共に又おつくりがらないで

に読解する力が不足しているために多くの教科において学習意欲が低下してきていることは事実である。

○読解力に欠けているために、文章を読むことをおっくうがる子供が多い。国語科において、内容を読みとる学習を徹底させないと、他のあらゆる教科の学習をすすめるのに大きな障害が残される。特に社会科学や理科を学習していく際、それぞれ自分からやっていかなければならないような問題に突き当たると、どうにもならなくなってしまう場合が多いし、又読む力が不足しているために、極めて簡単な文章をも読みとることができないでいる場合が多い。

○戦前のように綴方が独立した教科になっていないために、今の子供は戦前の子供に比較して自分の考えをまとめるという力が不足している。実用的な文は勿論、文学的な文章についても十分な指導を行い、その能力をつけて送り出してやらなければならない。

○このごろの子供達は秩序立った文章がかけないという意見をきくけれども、確かに文章をかく力がきわめて劣っているように思われる。

○作文は単に表現力をつくるだけではなく、物の見方、考え方を深めると共に、具体的な事実にもとずいて考え、物事をいかげんに考えない子供をつくる上に、極めて重要な役目をもっている。

○作文は児童生徒の生活の記録であり、子供の心の告白でもある。従って教師は作文を通して、子供達をより深く知ることができるものである。作文教育が現在よりもっと重視されなければならない。

○口でなら或る程度話すことができるのに、文にあらわす力が不足しているために、話すことを書きあらわすということができない。

○子供達は自分を表現する言葉なら持っているけれども、文字はもっていないともいえる。子供達は5・6年になっても仮名ばかりの読みづらい文章をかいているものが多く、又その仮名遣いもあやまりが多く、よめない場合がある。

○文字をかかせても誤字が多く、又つくり字やあて字が多い。筆順についても、それ程やかましく言わなくてもいいが、あまりにもひどすぎるものがあるから、一応留意して指導しておく必要がある。

にして、子供に書くことの張り合いをもたせるようにすれば、子供の力はもっと伸びると思われる。

●乱読でもいいから読みたい本はまず沢山よませ指導すべきだ。
●能力別の指導を行って中以下の子供に指導に力を入れなければならない。

●小学校では特に書く力を養っておく必要がある。

⑭

⑭

[32]

⑭

⑨

⑧

②

[15]

⑭

書く態度を養う必要がある。

○英語は話す力よりも読む力をつけなければならない。

5 ○生活を合理化するためにもっと数量に注意する態度を養う必要がある。特に文章にかかれていた問題を解く練習を徹底させその中にある問題解決の手順を身につけさせ日常生活を数量的に処理する態度を養う必要がある。

○算数×学の基礎となる計算力をしっかりと身につけさせなければならない。法則をよくせのみこまめに練習させて身につけさせる必要がある。

○暗算の能力をもっと養う必要がある。

○概算になれさせ、常につかえるようにする必要がある。

○数表や図表を理解し、又生活の問

○書かれている文字が不正確なために、作文をよむのにも本当に困る。

○読む力が極度に不足しているために、一二割の子供達しか毎日の授業についていくことができない。

○どの学年についても、又どの教科についてもいえることであるが、教科書にかいてある文章が読めないと共に、書かれていることがらの中の数量的なことからをよく理解できないため、それぞれの教科の学習が大いに妨げられている。

○算数の計算力は最近一・二年のうちに、かなりよくなった。併しこれを生活の問題に活用して生活を能率化するということができない。まずもっと事実問題の学習を行って、問題解決の力を養うことが必要である。このごろの子供達は計算問題ならばかなりできるが、事実問題となると、クラスの中で極めて勝れた子供であつても、殆んどできないようなことが少くない。

○生活を能率化し科学化するために数表や図表などを充分に用いるということをしなさい。

○子供達の算数数学の学力不足の根本的な原因は計算力の不足にある。計算方法をよく理解させると共に充分に練習をさせる必要がある。

○いろいろな算数の法則を自分から発見することができると現在の指導法の長所をみとめると共に、更にこの法則を用いて具体的な問題をとく練習を充分に行っていくことが必要である。

○現行の指導要領には暗算指導の体系が示されていないが、頭加算式暗算をもっと体系立てて指導すべきではないかと思う。暗算をやらせると、子供達は数の取扱になれ、他のすべての計算に対して、自信を深めさせることができる。

○計算を行ったあと、その結果が全く違っておつても平気である場合が少くない。又日常生活の問題は概算で片付く場合が多く、又速やかに概算しなければならない場合が多いのであるから、もっと概算の力を養う必要がある。

○図表や数表をみてそれを理解し、自分の生活に関係している社会の事象を理解することができず、又自

①

[1]

①

[74]

[8]

⑩

⑩

[27]

⑦

[4]

④

[3]

③

[2]

②

[2]

②

・理解させることだけでなく練習ということか特に強調されなければならないのではないか。

・昨年度市の教育研究所で、配布したような練習カードを是非配布して欲しい。

・小学校のときに戦前のように徹底的に計算の技能を養っておくことが必要である

題を数表に表わして調べたりする能力が足りない。

分の生活の問題を数表や図表に表わして科学化したり合理化したりする能力が不足している。

6 ◎自然物を大切にすることを習慣を養い生命を尊重するように指導しなければならない。

○あやまった科学教育の結果のせい、児童達の生活に、生命尊重と生物を愛護しようという態度が不足してきている。

○いくら話してきかせたり注意したりしても飼育中の鯉に石を投げつけたり、公園や学校や街路等の樹木や草花を折ったり、いためたりすることがやめられない。

○自然の美しさに心からひたるということがなく、鳥や樹木を愛護するよるこびを理解していない。

7 ◎物事を科学的に考え、合理的に処理しようとする習慣態度を養う必要がある。

○日常生活の中でそれが明らかに不合理であることがわかっているようなことに対しても、習慣に流されたり、因襲にとらわれたりして、これを合理的に解決していこうとする態度がつかられない。

○物事を理論的に整理して考えていくという能力が欠けている。

○物事の解決を権威の力や富の力によってだけ解決しようとする考え方が強い。

○子供達の批判的な態度をより一層助長するように指導する必要がある。

○地域の大人たちは伝統的な慣習の濃い世の中に住んでいるためか物事を考えたり解決したりするのに非合理的な、慣習に流された解決法をとり易い。学校ではこのことを考えて特にしっかりと批判的な考え方を身につけさせて送り出してやる必要がある。

○いろいろにからみあった世の中の事柄の中から一つのことを解決するのに最も必要な要素を的確につかみとり考えをまとめることのできる子供をより多くつくらなければならない。

8 ◎皆と一緒に歌を歌ったり又絵や文をかいて話し合ったりする能力を伸ばすと共に、それによるよるこびとする態度をつくる必要がある。

○音楽や図工が学校生活のすみずみまでゆきわたり、子供達の和合を深め、心の成長に役立つようにされなければならないだろう。それには音楽や図工が単にそれぞれの教科の時間の学習だけに終らないで、朝礼、H. R、特別教育活動、その他の教科の学習等のとき自由にとり入れられ、子供達の学校生活のすみずみにまでいきわたるように計画されなければならないのではないかと思う。

○音楽や図工において特に基礎的な

○正しい基礎的な表現の技能が身について、はじめて個性豊かな芸術が生れてくるのであると思う。従って基礎的な技能の訓練は極めて大切であると思われ

9

[9]

6

②

①

22

[13]

⑩

①

①

[6]

④

9

[6]

⑥

[3]

②

技能の訓練をより一層強化しなければならぬ。

るのに、ただこの基礎的な技能をねるための学習が骨が折れかつ興味がないため、最近おろそかにされてきている。音楽や図工における基礎技能の修練をもっとやらなければいけないのではないか。

9 ●美しい物を理解し気品の高い子供達をつくらなければならない。

○この地区の子供は他の地区の子供に比べて色彩感覚がすぐれ、図案なども巧みなようにも思われる。が併し、この地域の産業の特性を考え、その特性をより一層伸ばすためにはより一層の基礎となる訓練が必要となるであろう。

○地域の人々はこの土地の子ども達の軽卒で落ちつきが足りない点、或いは乱暴でありながら底力のない点に関して比較的むとんちやくである。もつと立派な音楽や絵や文によってゆたかな情操をつちかい、落付いた気品の高い子ども達に育てあげるように考える必要がある。

○道徳教育を徹底させなければならない。そうであるからといって、勿論修身科の復活を唱えるわけではない。そうではなく、近代人の道徳というようなものは、ただ理屈として上から教えたというだけでは決して身につくものではない。眞の道徳教育は、そのような修身科の復活によってなされるべきではなく、音楽教育や美術教育、更には現実の社会のしくみを理解するための社会科の学習等によって学びとられるものであり、こうした教育によってのみ人間としての心情や科学的な考え方は作られるものであると思う。こういう意味の道徳教育の振興をはからなければならないと考えるものである。

○美術や文芸を日常生活と結びつけたものとしゆたかな人柄をつくらなければならない。

○うすっぺらな、何事に対しても損得を先に立てて物事を考え、ゆたかさとかゆかしさとかいうようなゆとりのない人柄をなおさなければならない。それがためには、子どもの頃から文学や藝術のよさを理解させておかなければならないと思う。

○文学や芸術に対する関心を高めなければならない。

○誰も彼も芸術の尊重を口にはするけれども、当局並びに地域の人達のこれに対する関心は極めて低く更には学校においてすら主要科目と考えられないような風潮さえある。従つてその設備についても充分とは到底考えられない。多くの学校でP. T. A寄附のピアノ一台、あとは不安全なオルガンが何台かあるだけであり、音楽の振興を図ろうとしても容易にはかれないのが現状である。

①

10

[6]

⑤

③

[2]

②

[2]

②

10 ◎宗教心をつちかわなければならぬ。

○社会正義といい 人間愛といっても その根底に流れるものとして宗教的な心情のあることに気付かなければならない。

○明らかに迷信と考えられるような宗教については論外であるが 人々がたとえ一人になっても正しい道をあゆむというようなとき その人の背骨となってその人を支えてくれるものの一つに 信仰によって得られた心の強さのあることを常に認めることができる。

11 ◎体力をつけて もっと頑張りのきく子供にする必要がある。

○遠足などのとき落伍するものが多く 又最初から遠足のように骨の折れることを好まぬ傾きがある。戦前のように子供達の身体を鍛えるという試みが極めて少なくなっているために 子供達の体力も気力も衰えて 頑張りがきかなくなってしまうている。困ったことだ。

○衛生的な躰を身につけさせたい(歩行の際或いは座っている際の正しい姿勢をも含む)

○自分の健康を保つための衛生的配慮を自から進んで行うということが少ないように思われる。単に子供達の身長がまし体重が増加した(戦争中の子供に比較して)ということだけから 保健体育の面で この地区に問題がないとはいへ、きれない。

○学習時や歩行の際の正しい姿勢の保持 食前の手洗の励行などもっと指導すべきだ。特に正常歩の訓練は折にふれて より一層の指導が行われなければならないと思う。

○体育の基礎ともなり均齊のとれた身体の発達を期待する上からももっと徒手体操が重視されなければならない

○子供達も そして又指導する教師もあまり興味がないためか 徒手体操がとかく軽視されがちである。併し 考えてみれば他の運動の基礎として 更には又年齢相応に健康の度合を考慮して身体をきたえることのできる運動として 徒手体操はもっと重視されなければならないと思われる。

○体育指導をもっとリズム感覚を養う必要がある

○社会生活を楽しくし 仕事の能率を高める上に リズム感覚の訓練は極めて重要な役割を果たしている。特にこれからの時代には必要になってくると思われるが 現在のところ子供達のリズムに対する感じ方は極めてにぶい。

12 ◎余暇を生み出し それを有効に用いることができるような指導が強化されなければならない。健康な

○健全な娯楽や運動がどれ位必要であり大切であるかということについて 地域の大人達は極めて無関心である。子供もその影響を多分に受けているためか 余暇を生み出し これをうまく活用して心身の健康のために健全な娯楽や運動を楽しもうという気持が弱い。

2

(2)

①

①

16

(7)

⑦

(6)

④

②

(2)

②

(1)

①

2

(2)

①

娯楽を行い健全な趣味をもつことができていない。

- 13 ●家庭や社会の正しいきまりはどんな世の中になっても守らなければならないという考え方が徹底していない。
- 世の中の秩序を保ちより一層多くの人々を幸福にしてくれるようなきまりは常に進んで守り抜くというような態度が作られなければならない。
- きまりを守り他人に迷惑をかけない様にならない。
- 規律ある団体行動がとれない。
- 14 ●生活の能率化
- 多くの子供達が余暇を無意に過し、或は不健全な娯楽や趣味に心身を毒されている。
- 民主主義の世の中になって過去の日本の家庭や社会のきまりのうち、いけないと思われる秩序やきまりは否定され、捨て去られなければならないが、併し乍ら又たとえそれが封建社会において特に強調されたことであつても、正直とか親切とか、協力とかいうこと更には他人に迷惑をかけない、他人を尊重することなど又、祖国を愛し、平和を愛し、世界人類を愛するというような心情はたとえそれが封建社会の道徳ではあつても大切であると思う。こうした大切なことまで忘れられ、無視されているように思われる。
- きまりを破るというようなことが破るということだけで手柄顔に語られるような傾向が強いが社会の一員として生活していくためには、人々が良心的に行動していくようにならない。
- きめられたことは、之れがきめられている限りしっかりと守らせなければならない、どうしても守れないことだったら、それを充分話し合ったあとで改めるべきだということをお子達に学びとらせ理解させる必要がある、子供達は学級会や児童会、生徒会で廊下を走らないこと、ペタンをやらないこと、おはじきをやらないこと、等きめておきながら、真剣に守らなければならないのだという気持ちがない場合が少なくない。
- 民主主義に対する認識が浅く、民主主義は利己主義、我儘主義と同じであると考えている者が少なくない。いつも都合よい理くつを述べて自分の利己主義を正当化しようとする世の中の社会秩序観が確立していないため、子供の社会秩序観が乱れるのである。
- 体育においても個々の技術ではある程度満足すべき技能を示しているが、少し大きな集団の中で団体行動をとらなければならないとなると極めてまづい。体育の時間のみに限らず団体的な訓練が軽視されているように思われる。
- 父兄の毎日の生活に能率化のための努力がなされていないため子供達の能率化への意欲がそがれてしまう。家庭科や理科社会科等の知識もあまり生かすこ

①

21

(9)

⑨

(8)

④

④

(3)

③

(1)

①

14

(5)

③

とができない様な環境にある。

○物事をするに当って、いつも計画を立てそれに従ってできるだけ無駄な骨折のないように努力しようとする態度を作ってやらなければならない。

○子供の生活指導を家庭と学校とでもっと密接な連絡の下に行う必要がある。

○たとえば小さなことであっても日常生活に即して子供達の生活指導をさせなければならない。例へば雑巾のしぼり方やたたみ方など家庭の一寸した配慮で学校生活に貢献できるし、又食器を洗ったあとふせておくというようなことは家庭の常識であるがこれがつけられておれば学校の水のみ場がいつもきちんと整理されているということにも通ずるのである。このように子供生活のしつけについてはこまがいことでも面倒がらずに互に指導し合うことが大切である。

○時間を有効に利用できるようにしなければならない。

○約束の時間に遅れたり、予定された時間に会が終らないというようなことをなくし、子供のときから時間励行の観念をしっかりと作っておかないと、いつになっても足利時間ということが改められない。

○惰性或慣習に流されないうで家庭や社会の生活を能率化する。

○たとえば苦しい生活の中にあってもつねに自分の家庭生活、社会生活に反省を加え、工夫して能率化していこうとするような人が少なく、ゆき当りばったりであるように思われる。

15 ○公衆衛生に対する理解を深め自分からすすんで協力するような子どもにしなければならない。

○公衆衛生に対する理解が浅く関心が低い。
○伝染病の発生に際しこれをかくそうとするような者も少なくない。
○咳や小便をどこへでもする。
○予防注射をきらう。
○公衆便所をよごす。

16 ○この土地の人々は他の土地の人達に比べて特に利己的であり、自分のことや親類縁故のことだけにとらわれているから強いがそれに伴って利己的子どもが多く又打算的に過ぎる。

○自分のうちだけ、又親類縁故のものだけがよければいいという気持が強く、もっと広い足利なり更には業界全休なりの立場になって考えていこうとする人が少ない。
○利己主義的な生徒が多く、他の者がよい成績をとると、それをねたむ。
○金銭に対して関心の高いのは経済観念が発達しているという意味からよいことであるけれども、精神的なものまで金で評価して安易に解決してしまおうとする風がみられるのはまずいことだ。
○何か世話になっているときは、いろいろと御世辞を言い取もつけけれども、世話にならなくなると急に薄情になって遠のいてしまう。

②

[4]

④

[4]

④

6

[6]

②

①

①

①

①

1

[1]

①

17 ◎自分の立場をよく自覚して行動できるようにしてやりたい。
○上級生になって、ただ上級生であるからということだけから下級生の前で威張るというような子供があるが、こういう子どもには特に、上級生としての責任を自覚させて行動させる必要がある。

18 ◎礼儀正しい言葉遣いができるように指導されなければならない。
○目上の人に対して、又友人同志の間での言葉使いが悪く、もつとていねいな言葉使いをさせる必要がある。
○教師と生徒との親しみの深まるのはよいけれどもややもすると友人に使う言葉との差別がなくなってしまう傾向が強い。
○日常生活における言葉使いが粗野であるから、これをもつと純化する必要がある。
○空っ風や騒音の多い中で暮しているためか、この土地の言葉は、どなりちらし型の言葉がもとになってそれにつれて行動も乱暴になり、礼儀正しさが失われている。
○ラジオ映画などの影響もあつてか、流行語が行われすぎる害があるように思われる。
○礼儀正しい言葉使いは、その人の行動までも礼儀正しくするものであるから、是非礼儀正しい言葉使いをさせなければならないと思う。

19 ◎もつと礼儀が守られるようにならない。
○子供達の学校内外での挨拶がきわめていいかげんになってきた。特に校外では知っていても知らぬ振をしていきすぎしてしまうというようなことが非常に多い。
○民主主義になって個人の尊厳が強調されるのはよいが、それだからと言って、守られなければならない礼儀までも全く守らなくてよいということはない。社会生活をお互に気持よく営んでいく上に最低必要とされる礼儀は是非守るよう指導されなければならない。

○礼儀作法についてもつと形式的なことも教える必要がある。
○子ども達の中には、心の中では礼儀正しい行動をとらなければならないと考え、更にそうした行動をとろうとしているのであるけれども、その作法を身につけていないために、自分の行動に自信がなく、ぐにやくにやしたあいまいな態度しかとることができずに礼を失するというようなことが少くない。こういう意味から是非礼儀作法を教えなければならない

○人を尊敬する態度を養わなければならない。
○敬語の使える子どもはあるけれども、それが上長をうやまう気持によつて裏付けられていないように思われることが多い。

1
[1]
①

17
[17]
⑨
③

②

①

①
①

13
[13]

⑤

[5]

[4]
③

・躰教育がもう少し重視されなければならない。

- 声をかけられても知らぬ顔をして通りすぎてしまうような生徒が少なくない。教師自身の責任もあるが、生徒に対してもっとはっきりとした指導を行うべきである。
- 20 ◎集団行動のしかたをわきままえ、それぞれの状況に応じて指導者として行動できると共に、地味な協力者となれるようにしなければならない。
- 指導者として必要な態度や能力が不足していると共に、そのときの指導者のよい協力者として全体の立場を理解して行動するという態度に欠けているように思う。指導者の位置に立つときには任務の軽重に拘らず満足に感じ一生懸命やろうとするが、その立場を去ると協力してよくしようという気持を失ってしまう。
- 21 ◎責任を重んずる態度を養う必要がある。
- 自分の責任はたとえどのようなことがあっても、しっかりと果そうとする子どもが少ない。例へば児童会、或は生徒会等で、各人或は各グループでそれぞれ果すべき責任を定めながら、多くの場合それが守られない。特に次のようなときに子ども達の責任感の不足していることを強く感じさせられる。
- ・使ったものあと始末。
 - ・分担した仕事の責任を果す。
 - ・学級会での申し合わせを守る。
 - ・提出物の期限を守る。
- かげひのない実践力を身につけなければならない。
- 仕事や掃除等のとき人の見ているところや目立つところはよくやるが、みていないところや目立たないところはいいかげんにやる。教師の指導技術の不足しているという点もあるが、より根本的にはやるべきことは、たとえだれかがみていようといまいと、目立とうと目立つまいと、実践しなければならないという社会人としての自覚の有無が問題にされなければならないのではないかと思う。
- 22 ◎人間として生きるということがどういうことか、しっかりと理解しそのような生き方をするための素地を養う必要がある。
- 能力の劣っている子ども、貧しい子ども達の立場をよく理解し、一緒になって行動できるような子どもを作ることが大切である。人を押しよけ、よわいものはふみつけて自分だけは先に出ようとするのを当然と考え、弱いもの、貧しいもの、能力のないものがふみつけられるのは、自由競争の世の中なんだから当然だというような考え方はなくさなければならない。こうした世の中に入っていく子どもに対しては、特にどのように生きなければならないかについて指導してやる必要がある。

①

2
(2)
②

8
(5)
⑤

(3)
③

2
(2)
②

23 ◎権力をかさにきたり、能力をはなにかけて謙虚に他人の意見に耳を傾けるよきな子どもをつくるに、職業社会的地位にとらわれないで人と接するよきな子どもをつくらなければならない。

◎弱い人と思わず、達をあまり考えないで自分だけよい思いをしようというよきな大人をつくらなければならない。

24 ◎世の中のしくみをよく知り又その進んでいく方向とより多々くの人達の幸福を考へて、すべての社会問題を解決しようという意識と態度をつくらなければならない。

◎世界的な視野に立って国内の問題を考へるよきな能力と態度とをつ

◎成績のよいことや体力のあることをかさにきてクラスの中で威張ったり、劣ったものを否定したりする傾向をみるこゝとがときどきある。又家庭が金持であるか、貧乏であるか、みなりがいいか悪いか、などのために友達同志で差別するなどの傾向をときにみとめるこゝともある。このよきな気持は親切になおしてやる必要がある。又何か子どもがあやまちをおかしたよきな場合、すぐに「校長先生に話しますよ、校長先生に叱ってもらいますよ!」というよきな権威にたよつた叱り方をするよきなこゝとが、ときにあるよきであるが、やめなければいけない。又「会長さん、役員さんには礼をするんですよ。」というよきなこゝとをよくに言うが、一体何のためにそんなに形だけの礼を強いるのかわからない。「会長さんは皆んなのこゝとをいろいろ御世話下さつています。御挨拶しましょうね」と理由をよく話してさせるべきではないだろうか。

◎他人をおしのけ、弱いものの立場を考へないで自分だけらくをし、よい思いをしようとする大人の少くないこの地域でもあるから、特に子ども達がそうした考へ方にならないよき注意深く指導しなければならぬ。

◎人間の社会は常に進歩しているのよきであるというこゝとを先ずしっかりとらえ、かつては人々の幸福を保証するこゝとができたそのきまりや考へ方も、世の中の進歩に伴つて、それらのうちのいくつかは、却つて人々を苦しめるきまりや考へ方になるこゝともあるのだというこゝとを考へて、あやまりのない考へ方や行動をとるこゝとができるかよきな人になるための基礎をつくっておかなければならぬ。

さもないと、現在の大人の世界がそうであるよきに、従来の慣行や、現在だけの利害得失だけで問題を片付けてしまうという傾向はいつになつてもなおらない。

◎地理教育や歴史教育をもつと強化し、世界の本当の姿を知り、日本の問題も、このよきな広い視野に立って理解するこゝとのできる人にしたい。日本が再び徳川時代にやつた鎖国政策のよきなこゝとをしないためにも是非必要である。

2
〔1〕
①

〔1〕
①

2
〔1〕
①

〔1〕
①

くらなければならぬ

25 ◎憲法や法律をよく理解し、個人の権利の主張ができるようにすると共に、義務も又守ることができるようにならなければならない。

○人々は憲法や法律によって自分に与えられ、又保証されている権利をしっかりと理解せず、近所の人々への気がねや自分の都合や取引の関係などから、それを主張しないでひっこめてしまうことが少なくな。それと共に又憲法や法律に定められた義務に対しても、これをすすんで守らなければならないのだという考え方が弱い。そしてどうしても守れないようなものであると考えられたときには正しい方法によってそうした法律を改めることに努力するような人をつくらなければならない。ときに守れないものは改めるというのではなくて、かげでその法律のあみをくぐってしまうというような人をみかけるが、これではいつになっても法律もよくなりなし、法治国としてのこの社会もよくなりなし。

26 ◎歴史教育、地理教育を充実し、地史的、歴史的な広い視野と豊かな強い心情とをもって問題を解決していこうとするような子供をつくらなければならない。

○世界のいずれの国にも歴史はあり風土はあるのである。ソ連でも歴史は学び、アメリカでもその歴史はちゃんと教えられ重視されている。日本においても、従来のようなゆがめられた歴史ではなく、眞実の歴史を十分に教え、ものごとを歴史的にみることのできるような子どもをつくることのできるような子どもをつくるのが大切である。日本をよく知ってこそ、日本への愛情も生れ、よりよい祖国にしよとの意欲も起ってくるのである。それと共に又地理によって世界の地理と日本の地理とを教え、世界に通ずる目で日本をみるようにさせなければならない。正しい民主主義を体得させ、祖国を正常な姿で再建していくためにも地歴教育はもつと系統的に教えられなければならない。若しそうした頭で現在の社会的な事象を考えていくような人々ができれば現在よりは政治的なものでぐっとよくなるだろう。

○封鎖的エゴイズムを捨て大きな広い心をつくる必要がある。

○島国根性ということが、あまりいわれないようになったが、決して島国根性がなくなったからではない。戦争に敗れて自信をなくしてしまって、自分の考えを主張しないからである。やがて偏狭な島国根性の生れてくる可能性は極めて大きい。従ってこれから広い素直な目で、自分と他人とをみていくことのできるような子どもをつくるための努力がおろそかにされてはならないと思う。

1
[1]
①

12
[10]
⑩

・5年あたりで是非歴史教育をしっかりと取扱う必要がある。

[2]
②

27 ◎郷土および我が国に対する愛情を深めさせる必要がある

◎日本人の使命を自覚し誇りをもたせたい。

◎平和を守ることが一時は苦しいことであっても究極的には幸福への唯一の道であること理解をし、平和を守るためにならなければならないように教育されなければならない

28 ◎近代産業の特質を理解し、生産を高めるためにはどうしたらよいかを広い視野に立って理解した子ども達を送り出さなければならない

29 ◎計画を立てて能率的に仕事をできるように仕向ける必要がある。

◎よりよい機械や器具について、それを取り入れ研究して

◎父兄も子どもも本当の意味の郷土愛や祖国愛をもち合わせていないのではないか。戦前のようなかたよった郷土愛や祖国愛を強くするような教育が考えられなければならない。

◎戦前は東亜の盟主であり、一等国の国民としての誇りをもって、よい日本人になろうと努力してきた。併し戦後はそれがなく、誇りも何も皆失われて、立派な人として守らなければならないような公衆道義や社会への奉仕の心などが失われてしまった。人々の幸福が本当に守られ尊重されている国として世界の国々から羨まされるような国をつくるという自覚を深め希望を失わないようにして努力していこうという気持を、子どもは子どもなりにつくってやってやりたい。

◎たとえ一部の人達や一部の国々が戦をたくらんでも、平和を愛する世界の人々の与論と共にあゆみ、平和を守り抜こうとするねばり強い力をもった子ども達をつくらなければならない。

◎生産・流通・消費等に関して理解を深めより多くの、そして究極においてすべての人々の幸福を増進するために、生産生活を計画的に営もうとする気持で満たされた人々をつくるようにしないとだめだ。自由競争だけでは幸福な社会をつくることのできない。

◎職業の時間や家庭生活においてよく働らくが、計画性に欠けているため馬鹿骨を折っていると思われる点が見受けられる。

◎子ども達の家庭をみると、工夫してもう少し能率化することができると思われるのにそれをしないで満足している人達が多いように思われる。

•機会あるごとに平和を愛する心情をつちかう必要がある。

•就職指導や職業教育の徹底を図る必要がある。

5
[3]
③
[1]
①
1
[1]
①
11
[4]
④
[3]
③

いこうとす
る気持が足
りない。

○就職してか
ら必要とな
る大切な技
能をもう少
し早く身に
つけさせる
必要がある

○日常生活に
役立つ知識
をもっと深
めるように
する必要が
ある。

30 ○個性をよく
知って、そ
れに合った
職業が選べ
るようにな
ると共に、
選んだ職業
に努力して
いくような
子どもをつ
くる必要が
ある。

31 ○労働を愛し
労働によっ
て生産に精
進している
人を心から
尊敬しいう
人間の方
が楽をして
ぜいたくを
している人
間よりも
尊敬されな
ければなら
ないのだと
いう心情を
強くもたせ
るようにし
なければな
らない。

○上手にたち
まわって、
他人の骨折
をしぼり取
り、自分か
らは骨を折
らないでい
ようとする
気持を是非
なくさなけ
ればならな
い。

○家庭科・職業科は生活の合理化の基礎をつくること
の大切な学科である。もっと工夫し、充実する必
要がある。

○日常生活に必要な基礎的な仕事についての知識が乏
しい。アイロンやミシン等のちょっとした故障もな
おすことができず、又こうしたものを上手に長持ち
させるような知識や技能をもう少しつけてやる必要
がある。

○子ども達も父兄も多くの場合自分の個性を知って
個性にあった職業を選び立派な業績をあげようとし
るよりも、みえに動かされ、榮できれいで、華やか
で金になる仕事ならば、将来のことなど、考えない
で職を選ぼうとする。

○「働らかなければ食わない」という精神を幼いうち
から養っておく必要がある。足利の子ども達は身体
をうごかして働くということをどうしても好まず、
見栄や外聞ばかりを気にして、からだをうごかさな
いで椅子に腰を掛けて事務でもとっている人にだけ
なりたがるような傾向が強い。

○子ども達を含めて、足利の多くの人達が、汗を流し
て働らくということを、一段と低い程度の人達のす
る卑しいことだというように考えている。こうした
考え方は極めて根強いものがある。あらゆる機会に
働くことや働く人が眞に尊敬されなければならない
ことを学びとらせ、働くことの中に最も高い価値を
認めるような心情をつくらなければならない。日常
のちょっとした作業にも、勤労を軽んじ厭う傾向が
強くあらわれてきている。又子ども達の希望する職

・実習用設備を共
充実するに、又工場連
実地に、とも充分
店絡をとって、修練
つむることをし
つぎやる必要が
ある。

[3]
③

[1]
①

2

[2]
②

12

[4]
④

[8]
⑧

業の中にもそれが明瞭にあらわれてきている。額に汗をして生活を開拓していることを愛好するようにしてやる必要がある。自分から骨惜しみをしないでよいことをやっていくような子どもが極めて少ない

○骨折りをいとう気持が強いため、あまり興味の少ない基礎学力の学習などに対する努力がおろそかになり、学力も低下してきている。

○どの教科でも、仕事に当って苦しみをのりきって働くのと同じような態度がつけられなければ、本当の学力はついてこない。

○目立つ学習はやるが、根気よく問題にとり組むということはあまり好まない。

○×式のテストをよろこぶのは、骨が折れないからであろう。

○子ども達は快楽だけを求めて苦しいことから極端に逃げようとする。

○清掃作業などもあまり力を入れない。又遠足なども乗物を利用してらくにいけるところでないといよろこばない。

32 ◎仕事をするとき、ねばり強く頑張る態度を養う必要がある。ちよつとしたことではへこたなれることなく、たとえ一人になってもねばり抜くようなさつと忍耐力を養う必要がある。

○仕事をするとき、ちょっとした難かしさや、面倒なことに突き当たると、すぐへこたれてその仕事や勉強を投げ出してしまふ。又単調な仕事であるとすぐあきてしまふ。

○何事についても持久力が足りず、立派な仕事ができない。派出な役割なら一生懸命やるが、目立たない役については努力をつづけることがむずかしい。即ちしんの強い子が少ないのである。

○この地方の子どもはめずらしいもの、新しいものにはすぐ飛びついていくが、最後まで頑張つて、けじめをつけるということができない。運動競技などでも、最初負けてしまふと実力としては充分勝てるものをもつていながらその実力を発揮することができないで終つてしまふ。

○このごろの子どもは「口ばかり達者でやることはからきりやらない。」といわれるけれども、確かに口先だけだという感じを強く受ける。もつと言つたことは実行しようとする実行力を身につけてさせたい。

○つねに機会をみつけて自己の性格をねりきたえ、すすんで苦しい仕事を引き受け、頑張り抜くような子供にしなければならない。

①

①

①

①

①

47

[23]

⑨

⑤

③

②

①

○学習のとき
困難なこと
や目立たな
いことでも
必要なこ
とは、どこ
でもやり抜
くような子
供にしない
といけない。

○予習・復習は勿論、毎日の授業のときにも興味が少
なく苦しい勉強のときには目立って一生懸命さがな
くなる。興味中心の新教育の欠陥かも知れないが何
とかは是正しなければならないと思う。

○学習中自分の欲望を抑え、注意を集中して学習をつ
づけていくことができない。ちっとしていることが
できないで、後を向き横を向き隣席のものとおしゃ
べりをする児童生徒が多い。

○この頃の子ども達は学習時間中落付いて物事を熟考
するということがなく、ちよつと考えてわからない
とすぐ諦らめて、考えることもあきらめてしまう。

○武士道の気魄とまではいなくても、もう少し気魄
が欲しい。

33 ◎経済生活を
良心的にい
となまない

○この地域には目先の損得に流されて、良心的な仕事
をしない大人が多いといわれている。こういう地域
に育つ子どもに対しては、こうした気風にそまらな
いように、特別な指導がなされなければならない。

34 ◎資源を愛す
る

○鉛筆やノートや本などの学用品や実験などのときの
薬品を使用する際、これを大切にできる態度がつくら
れていない。薬品の使用に際しても必要量以上を使用
し、かなりきびしく言わないとそれが守られない
い。

○自分のものは大切に使うが、他人のもの、公共のも
のはとかく粗末にし勝ちである。これは公衆道徳が
身につけていないということにも原因があるが、よ
り根本的な原因は、資源愛護の精神がつかわれて
いないからである。

35 ◎物を大切に
しなければならない。
特に公共物
を大切にす
るようにな
らなければならない。

○机・椅子・ガラス等の破損はいうにおよばず。到底
普通に取扱っていたのでは決してこわれないと思わ
れるようなものが次々にこわされていく。無理にこ
わそうとしてこわしているのではないかとさえ思わ
れ何ともいえない気持がする。もつと徹底的に指導
するため学校と家庭とがより一層緊密な連絡をはか
らなければならない。

○学校の施設や教室内の施設などの取扱いが乱暴であ
り汚損がはげしい。図書館の本、掃除道具等の取扱
いの乱暴なことは何回か注意するのであるがこれが
なかなかおらない。

[21]

⑬

⑤

③

①

1

[1]

①

3

[3]

③

①

21

[21]

⑨

⑧

	<p>○農村に比べて都市の子ども達は物を大切にするという点で欠けている。たとえ自分のうちがめぐまれているからといって粗末にしていということは決してないことを学ばせなければならない。</p> <p>○日本人は古來物を大切にすると自負していた。(公共物に対する愛護心が欠けているということについては指摘されていたけれども)然るに最近いろいろな理由から、このような物を大切にするという気風もすたれてきたように思われる。</p>	<p>③</p> <p>③</p>
<p>36 ◎知識を日常生活に活用できるように指導しなければならない。</p>	<p>○学校その他で学びとった知識が日常生活に生かされていない。更に又生かそうとしない。特に多くの父兄が金銭出納帳を明細に記入し、生活を計画化し、合理化しようと努力していない。従って子ども達にだけこのような知識の活用を要求するということには無理があるかも知れないが、だからと言って充分な指導が行われなければいつになってもよくならない。</p>	<p>1</p> <p>[1]</p> <p>①</p>
<p>37 ◎たとえ貧しくとも心の豊かさと気品を失わないようにさせたい。</p>	<p>○貧しければ自ら心もとげとげしてくるのはやむを得ないことであるけれども、学校と家庭とが協力して、そうならないように指導すれば現在よりもよくなるであろう。特に家庭においては貧しいことが何も恥かしいことではないということを父兄の行動を通して示し、又学校においては子ども達にそんな感じをもたせないように充分な配慮がなされなければならない。</p> <p>○それ程貧乏でもないのに、どことなく拵じみているみすばらしい。又何かくれる友達にへつらうような子どもが少くない。</p>	<p>5</p> <p>[4]</p> <p>①</p> <p>①</p>
<p>38 ◎自制心のある子供をつくらなければならない</p>	<p>○自由と放縦とをはき違えている子どもが多く、自由の背後に責任のあることを気付かぬ子どもが多い。自由を主張すると共にその背後にある責任を自覚し自からの行動を律していくことができるように指導されなければならない。</p>	<p>2</p> <p>[2]</p> <p>②</p>

以上は従来の教育目標を手がかりとして、整理のたばをつくり一応の整理をしたものであるがこのような整理のためのたば以外と思われる次のような意見もあった。

○農繁になると子供が家事の手伝いに使われて休むために、学習の進みが停滞してしまう。

○貧しいため、学習に当って是非必要と思われる学用品の購入ができず、勉強ができない子ども

が各クラスとも一割位いる。生活保護や教育扶助に該当しない子どもに対する援助の手がより
広くさしのべられなければならない。

- 義務教育費の国庫負担は是非実現しなければならない。
- 学校の意図する人間像と現実の要求する人間像とがかけ離れておつて、子どもに対して、確信をもつて指導することができない。
- 教育に対する父兄の関心は必ずしも低いものではないが、その関心は自分の子どもか或は僅かに近所の子どもに限られた狭い範囲のものである。
- こうした意見は、目標設定のための社会問題の抽出のための第1次の調査の結果とあわせて考察し、地域における課題をより明確ならしめた。さきにも述べたように、この調査の結果、更にはこれが集計処理の方法については、年令層別、地区別、受持学年別、受持教科別等に分析して考察すべきではなかつたか等、少なからぬ問題を残している。が併しそれにしても我々の地区の教師が全体としてどのような指導上の必要を感じているかということは教育の一般目標更には、地区の教育目標を考える上に役立て得ると共に、教師が自からの目標意識を明確化していく上に役立つのではないかと考える。

(六)生活事実の調査……………第3次調査

第一次調査、第二次調査によって明らかにされた地域の人々の問題的な考え方や行動の仕方を、地域の環境実態から確かめ客観化しなければならないと考えてこの調査を実施した。勿論さきの第一・二次の調査に際してもでき得る限り、被調査者の問題的な考え方や行動の仕方を、それぞれの環境との関係において把握しようと努力したわけではあるが、これを更に地域全体の環境実態によって、より一層客観的なものとして把えなければならないと考えた。

- この調査は今次の目標設定にとりかかる以前から日々の教育の資料として調査をすゝめてきたものであり、現在ひきつづいて追加調査を行っているものである。
- 調査項目についてはより一層検討しできる限り少ない項目を深く調査すべきであると考えたけれども、検討する期間が短かつたことと我々の能力の不足とのために今考えてみても、かなり無駄な項目を含ませてしまつてあり、もっと整理してから行うべきであつたと反省させられている。
- 調査結果についてはその大部分が社会科資料集としてさきに刊行されている故、ここでは主に調査項目と内容の一部農業の調査について資料集にのせてなかつた資料を補つて記載し、今次の生活事実調査の全貌を推測していただきたいと考えた。

調査項目

(1)社会的基盤

①自然的条件

a 面積 b 位置 c 気候 d 資源 e 立地条件

②社会的条件

a 人口静態

①校區別世帯人口 ②男女別・産業別・職業別人口構成

③人口動態

①人口・戸数の累年増加 ②人口の社会増(来住・移住)自然増

④歴史的條件